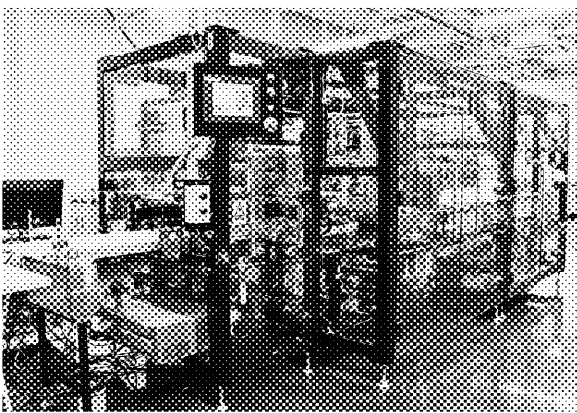


# 自動包装、環境に配慮

## ゼアーレボ・フジキカイ



新開発の「Vali on」(ヴァールオン)2。最適サイズの包装で、資材使用量と送料を削減する。

ゼアーレボ(東京都港区、黒土浩太郎社長)とフジキカイ(名古屋市中村区、生田涌希社長)は、環境に配慮した資材を使用する三辺可変自動包装システムを共同開発した。幅広いサイズの商品を取り扱う電子商取引(EC)物流向けで、過剰包装の削減とともに包装作業の自動化を実現する。包装機本体の想定価格は7000万円程度(消費税抜き)。EC物流業者向けに11月中旬に発売する。発売後3年間で20台の販売を目指す。

## 寸法最適化 EC向け

開発した「Vali on」(ヴァールオン)2は、包装機が品物のサイズを自動計測した後に最適なサイズの袋を作製し、緩衝材とともに自動で包装すること、資源のムダ使いをなくして送料の削減も見込める。

包装資材にはラミネートしたクラフト紙と紙製の緩衝材を使うことで、脱プラスチックを実現した。資材はロール状のものその都度、袋にするため、サイズ別の包装資材を保管する必要がない。

システムの保守業務は、全国10カ所にサービス拠点を持つフジキカイが担う。これにより、機械保全の技術者がいない物流倉庫でも安心して運用できる体制を整えた。

ゼアーレボは協働ロボットによる自動化提案も手がける。その技術力を生かし、ピッキングや仕分けなどの包装の前後工程の自動化も対応する。また、包装機への機能追加も可能。印字機の追加で送り状の情報を包装紙に印刷したり、上位システムとの通信機能の追加で顧客情報と品物情報などをひも付けしたりできる。